31st March 2021

# 畿央大学 看護実践研究センター Newsletter Vol.2

## CONTENTS

・看護実践研究センター長挨拶　看護実践研究センター長　山崎　尚美
・2020 年度事業実績
・＜各部門の事業報告や次年度の抱負・トピックス＞
　認知症ケア部門/卒後教育部門/地域包括ケア部門

## 看護実践研究センター長　挨拶

看護実践研究センター長・看護医療学科　教授　山崎　尚美

今回のニュースレターは，発刊第 2 号として，プロジェクト研究の紹介および 2020 年度の事業報告を掲載いたします。

2020 年 4 月 7 日，新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が宣言され，この 1 年間は COVID-19 という言葉を聞かない日がない 1 年間でした。そのような状況下において，本センターにおきましても開設 2 年目は研究活動が感染拡大防止対策を実践しつつ制限のあるなかでの活動となりましたが，3 密を避けた「with コロナ」体制での活動報告をいたします。

2019 年 4 月 1 日に畿央大学の 4 つ目の付置研究機関となる「看護実践研究センター」が開設されました。看護実践研究センターは，『看護実践研究に関する研究基盤形成および次世代の人材育成』をコンセプトとしています。そして，認知症ケア部門，地域包括ケア部門，助産学部門，卒後教育部門，国際交流部門の 5 部門により構成され，「建学の精神」である「徳をのばす」「知をみがく」「美をつくる」を基本理念に置き，保健，医療または看護を専門とする職業人および研究者に対して，最新の看護実践に関する情報を提供し，看護実践研究を推進しています。

また，地域住民に対して，保健行動，認知症

ケアおよび周産期に関する情報を提供し，研究活動と併せ，今後は地域住民の健康維持に寄与できるよう様々な取り組みを展開することを目指しています。

地域住民および専門職・教員・学生に対して『その人らしく幸せに生きる』ための看護実践活動および実践研究に取り組むことを目的に，以下の事業を掲げています。

(1) 看護実践に関する調査，資料収集，研究
(2) 看護実践に関連する講習会，研究会等の開催
(3) 看護実践に関する刊行物の発刊
(4) 地域住民の健康，保健行動，認知症ケアに関する支援活動
(5) 地域包括ケア，認知症ケアおよび助産学に関する専門的教育の提供
(6) 看護実践に関する卒後教育の提供
(7) 看護実践に関する国際交流の推進
(8) その他目的達成に必要な業務

看護実践研究センターはこれらの目的を達成するために事業を展開しながら，引き続き広くセンターの周知のために広報活動を行っています。次いで各部門の活動基盤の整備をいたしました。

2020 年度には，学内公募からなる『その人らしく幸せに生きる』ことをめざしたプロジェクト研究の公募をいたしました。1 件の指定研究と 1 件の応募があり，合計 2 件のプロジェクト研究が新たにスタートいたしました。また，オンラインを活用したハイブリット型セミナーの開催や看護系学会開催の後援活動を行ってきました。すべて COVID-19 のせいにするのではなく，制限のある中で限られた制約のもとでの活動ではありますが，2020 年度は「次の時代に適応するための充電期間」として捉え，新しい生活様式ならず，「新しい教育様式」「新しい研究様式」を開発すべく，次年度に向けて研究活動を再開したいと考えています。

最後に，これからのセンターの運営・活動へのご支援を賜りますとともに，センターの活用していただき，活発な看護実践および研究活動が行われることでさらなるセンターの発展が図れますよう，今後ともよろしくお願い申し上げます。

# 2020 年度事業実績

プロジェクト研究は，3 年間の計画でしたが 2020 年度の状況下から研究者らが柔軟に活動できるように延長制度を採用いたしました。各プロジェクト研究代表者からの報告は以下の通りです。

研究課題名　「軽度認知症高齢者の看取りを含めた終末期プロセスにおける意思決定支援ケアガイドの作成とその有用性の検証」
研究代表者：健康科学部　看護医療学科　對中　百合

終末期において死にゆく人々の意思決定を支えること(ACP: Advance Care Planning)の重要性を強化することが必要です。しかし認知症高齢者の意思決定能力は不十分であるとみなされ，家族や医療者で方針を決定しているという現実があります。

そこで，軽度認知症高齢者の看取りを含めた終末期プロセスにおける意思決定支援の現状と課題を病院だけではなく施設や在宅に勤務する看護師のインタビューから明らかにしたうえで,「軽度認知症高齢者の終末期プロセスにおける意思決定支援ケアガイド」を作成することを目的に, 本研究を 2020 年度より実施する予定でした。

しかし，昨年度は，COVID-19 感染症の影響を受け, 研究調査の実施を 1 年先送りして, 文献レビューおよび研究の概念枠組みの再確認を実施いたしました。したがって，2021 年度は，研究方法の再検討をし，このような状況下でも調査・分析が遂行できるように研究計画を修正し実施していきたいと考えています。

研究課題名　「ICT を活用した学童併設型認知症カフェのモデル構築」
研究代表者：健康科学部　看護医療学科　　杉本　多加子

2020 年度より研究活動が開始となりましたが,感染拡大防止による活動制限のため，対面でのインタビューの実施や予定していた調査研究を強行することは，高齢者や研究協力者の安全確保をするという倫理的側面から困難でした。しかし，2020 年度は研究課題に関連した「ICT に関する理解」を深めるための文献レビュー,情報整理や管理に関した物品の調達など,研究活動を行うための研究環境の整備をすすめることといたした。また,コロナ禍により認知症カフェの運営や学童保育自体の事業が中止となり,面談や訪問による対面式の研究データを収集することは出来ませんでしたが,オンライン面談の普及から奈良県,大阪府,富山県,熊本県下の認知症カフェ運営者らと Zoom などのコミュニケーションツールの用いたオンライン下での半構成的面接の実施ができ,ICT を活用することで地方都市の認知症カフェの運営についても情報収集を行うことが可能となりました。今後は，引き続きデータ収集を実施するとともに得られたデータ分析の結果を整理し，その項目内容

から質問紙の質問項目の作成をし，郵送による量的調査で情報収集をし,データ分析を行いたいと考えています。

また, 2021 年度は感染状況にもよりますが, 状況を静観しつつ学童保育の現地調査および学童保育での保育者への面談を行い,学童保育の実態調査を進めていきたいと考えています。

# 各部門の事業報告や来年度の抱負・トピックス

## 認知症ケア部門　部門長：看護医療学科　教授　山崎 尚美　副部門長：看護医療学科　准教授　上仲 久

認知症部門では，認知症ケア専門士などの看護職・介護職に対する研修会を奈良県認知症ケア専門士会と共に１２月(セミナー)と１月(研修会)を開催しました。今年度はZoomを活用して COVID-19(コロナの流行)の対策をして実施しました。

■ 2020 年 12 月 12 日(土)　13:30-16:40
オンラインセミナー　(Zoom ウェビナー)
「コロナ時代における　これからの看取り」
講師：清水寺　執事補　大西 英玄氏

講演の第 1 部の司会は，奈良県認知症ケア専門士会の会長でもある山崎センター長の進行のもと，大西英玄執事補からコロナ禍で，家族が認知症や終末期であって面会も付き添うことが出来ない状況下での死生観について，宗教家の視点で熱く語っていただきました。

生老病死などの厳しい現実，困難の中，人のために懸命に何かに尽くす過程において，自分が何者か，自分の使命に気づくと話をされ，苦しみは本当の喜びを形に変えたものであり，この苦しみはあなたの努力の糧になり，いつか必ず役に立つものであると説かれました。

▲オンラインセミナーの様子（大西英玄氏）

参加者は 52 名で 2 部では，Zoom のトークルームをいくつもつくり，参加者を 4 人ごとに分けてコロナ禍での困っていることなどを交流しました。奈良県内のみならず，岡山・広島・大阪・東京などから，認知症ケアに関わるご家族さまをはじめ多職種のさまざまな悩みを共有し，立場や職種を超えた貴重な機会となりました。

▲第 2 部のオンラインセミナー受講の様子

■ 2021 年 1 月 14 日（木）　13:30-16:40

オンライン研修会　（Zoom ウェビナー）

「認知症の一人称体験プロジェクト」

講師：株式会社シルバーウッド

黒田 麻衣子氏

この研修会では，認知症のバーチャル・リアリティー(VR)の機器を用いて，認知症になったときの状況を仮想体験し，理解しにくい当事者体験をしていただきました。これは，2020 年度奈良県介護人材確保対策総合支援補助金や地域住民や学校の生徒に対する介護や介護の仕事の理解促進事業を受け，和里（にこり），DCM 関西地区ブロック会ともに畿央大学看護実践研究センターが共催して実現したものです。

途中にトークルームでのグループワークがあることから全体の参加者は 28 名と少人数でした。　また，畿央大学の看護学科オレプロの学生も，この認知症の一人称体験プロジェクトに参加させていただき，認知症の VR 体験を通じて病気の理解とケアパートナーとしての自分自信の対応に多くの気づきを得ていました。

▲オンライン研修の様子(講師: 黒田 麻衣子氏)

2021 年度

① 第 5 回　2021 年 4 月 18 日(日)COVID-19 における認知症ケアハイブリット型セミナー

-コロナ禍において認知症の人の生活はどう変わったか-

講 師 片山 禎夫氏

（倉敷市 片山内科クリニック院長）

② 国際交流部門・認知症ケア部門合同オンラインセミナー

第 6 回　2021 年 7 月 31 日（土）

「海外の認知症ケア最前線-コロナ禍に認知症ケアはどう変わったか-」

講 師　国内外 6 人のシンポジストを予定

③ 第 7 回　2021 年 10 月 14 日（木）

「次世代のケアラーの人材育成」

講演・VR 認知症オンライン体験(予定)

## 卒後教育部門　　部門長：看護医療学科　教授　山本 裕子　副部門長：看護医療学科　准教授　林田 麗

2020 年度は，5 月 17 日(日)「臨床判断力を高める」卒業生対象　卒後教育研修セミナーを予定していましたが，COVID-19 の影響により中止となりました。

2021 年度は，以下の卒後教育研修セミナーを予定しています。オンライン開催にて，この 1 年間，COVID-19 下の臨床現場で奮闘した卒業生の生の声をお伝えし，after コロナ／with コロナの看護について，共に考えていきたいと思っています。

第 3 回　2021 年 5 月 23 日（日）
卒後教育研修セミナー（オンライン開催）
「コロナ禍の看護の現状～やさしさをチカラに変える 現場の声から～」
講 師　乾　文乃さん(看護医療学科 7 期生)

## 地域包括ケア部門　　部門長：看護医療学科　教授　松本 泉美

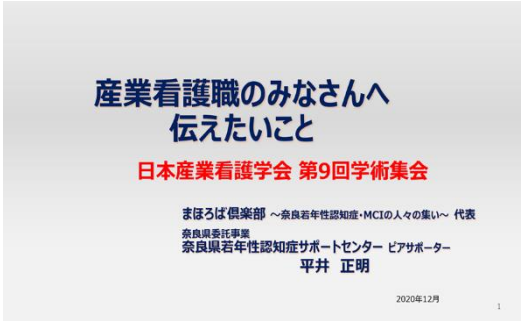
■ 12 月 1 日（火）～25 日（金）日本産業看護学会第 9 回学術集会　後援　オンデマンド開催

少子高齢化の進行が深刻なわが国では、2017 年に年齢や性別、障がいや難病を有していても全ての人が包摂され活躍できる社会のあり方として「一億総活躍社会」構想が示されました。その中では、がんや難病を有する方の「治療と仕事の両立支援」や、障害者雇用枠拡大の推進が図られています。それに付随して、多様な働き方を可能とする「働き方改革」関連法案が 2019 年より施行となるなどケアシステムの変化に対応した産業医や他職種との産業保健専門職チームとしての産業看護活動のあり方と看護実践力や連携力が求められ、これらは、地域包括ケアシステムとも連動しています。これらの背景に「多様な健康課題を持つ人の「働く」を支援する産業看護－明日へとつなぐ看護実践と連携－」をテーマとして、LGBTs 当事者弁護士による職域や社会での LGBTs の理解に基づく対応や若年性認知症者である当事者による支援活動などの講演、発達障害・難病・がん・脳血管疾患の後遺症を保有する労働者の支援に対する多機関・多職種連携の実践とそのあり方を考えるシンポジウムなど多様なプログラム内容としました。

連携機関としては、医療機関部門として退院支援調整を行う地域医療連携室や都道府県に設置されている障害者職業センター・産業保健総合支援センターの実践活動について紹介していただくことで、参加者からは、今後の実践に役に立つも有意義なものであったとの多くの声を頂きました。

また本学の健康科学部長植田政嗣先生には、「女性が美しく生きるための健康科学-女性のライフステージと医学的対応」をテーマに女性の一生を通した健康課題の現状と健康政策を含む対応について示唆に富む基調講演をして頂きました。

結果として、これまでの日本産業看護学会最高の 369 名の参加があり、盛会裏に終えることができました。ご後援を頂きました畿央大学看護実践研究センターをはじめとした多くの機関の皆様に感謝を申し上げます。




2021 年度

① 産業医・産業看護職・中小企業事業主を対象とした中小企業におけるメンタルヘルス好事例シンポジウムの開催（多職種・行政を含む多機関連携）

令和 3 年 11 月 13 日（土）予定

日本産業衛生学会中小企業安全衛生研究会第 55 回全国集会(奈良)

後援予定

② がんカフェの実施